

タイムスタディで捉えるレジデンシャル・ ソーシャルワーク・コードの開発と研究

—介護老人福祉施設における生活相談員と計画担当介護支援専門員の業務分析から—

イシダ ヒロシ スミイ ヒロシ クニサダ ミカ
石田 博嗣*1 住居 広士*2 國定 美香*3

目的 転換期にある施設福祉サービスマネジメントに注目して、そのソーシャルワークの標準化と専門性を明らかにすることを目的に、時間と回数という量的測度から、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）における生活相談員（以下、相談員）の業務と計画担当介護支援専門員（以下、施設ケアマネ）のソーシャルワーク業務の実態を調査した。

方法 調査は2009年4月から5月に介護老人福祉施設15施設の相談員16人を対象とし、比較対照として施設ケアマネ21人を加え、1分間タイムスタディ調査（自計式）を実施した。そのソーシャルワーク業務分類を、16項目の大分類、106項目の中分類、285項目の小分類のコードに設定できた。今回の調査分析には、大分類と中分類における各業務の「1日当たりの平均累積時間」「1日当たりの平均発生回数」「1回当たりの平均発生時間」を検証した。統計分析は、SPSS 17.0 J for Windowsのソフトを用いて、Spearman順位相関とMann-Whitney順位検定で分析した。

結果 相談員における大分類の1日当たりの平均累積時間では、1位「ケアワーク」169.61±103.88分は全体平均総和の百分率30.5%で最も多く、続いて2位「間接業務」109.00±77.77分（19.6%）、3位「チームマネジメント」72.69±68.97分（13.1%）の順であった。相談員の1回当たりの平均発生時間では、1位「アセスメント」59.25±37.45分は全体の平均総和13.6%が最も多く、続いて2位「職員研修」49.38±29.17分（11.4%）、3位「契約」31.67±14.04分（7.3%）の順であった。相談員と施設ケアマネの1日当たりの平均累積時間と平均発生回数の有意差の検定をした結果、相談員には、「施設運営管理等（ $p < 0.01$ ）」「地域との連携（ $p < 0.01$ ）」「ニーズの把握（ $p < 0.01$ ）」「スーパービジョン（ $p < 0.01$ ）」「チームマネジメント（ $p < 0.05$ ）」「権利擁護（ $p < 0.05$ ）」に統計的有意差が認められ、施設ケアマネは「ケアワーク（ $p < 0.01$ ）」のみに統計的有意差を認めた。

結論 ソーシャルワークにおける1日当たりの平均累積時間は、業務時間の標準化となるが、その専門性は評価が困難であった。1回当たりの平均発生時間が、1日当たりの平均累積時間より長い業務は、ソーシャルワークの専門性を評価するものとする。施設内ソーシャルワークとケアマネジメント業務に有意差がみられた業務は、分業による特異性が高いと考える。

キーワード 介護老人福祉施設、1分間タイムスタディ、レジデンシャル・ソーシャルワーク（RSW）、RSWコード

* 1 県立広島大学大学院修士課程院生 * 2 同教授 * 3 福山市立女子短期大学准教授

I はじめに

社会福祉法は、社会福祉基礎構造改革により2000年に社会福祉事業法から抜本的に改正された。社会福祉事業の適正な福祉サービスの提供および質の向上や透明性の確保、質の評価など社会福祉事業者主体から利用者主体に転換して、社会福祉の推進と向上を目的としている。

第一種社会福祉事業の施設福祉サービスにおいては、その対象者を入所ニーズのある「施設入所者」だけではなく、地域に居住する個別で多様なニーズを持つ対象者にも展開する必要性があり、新たな「利用者主体の視点」が求められている。社会福祉事業の展開においても、従来の集団完結的で施設内の入所的なものから、近年は個別性と多様性のある施設福祉サービスの構築へと転換が求められている。

老人福祉施設である特別養護老人ホーム（以下、特養）は、2000年度介護保険制度の施行に伴い、「措置」から「契約」へとサービス提供方法が変更され、利用者との契約に基づき介護サービスを提供する介護老人福祉施設に指定された。こうした利用者の自己決定に基づき、自立生活を支援するために、施設福祉サービスにおいても、尊厳を保持し、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるようケアマネジメントが実施されている。

このような、転換期を迎えた施設福祉サービスにおいて、ソーシャルワークを展開する生活相談員（以下、相談員）について、「養護老人ホーム及び特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準」の、第18条（相談と援助）と第19条（社会生活上の便宜の提供）に義務規定が明記されているが、ソーシャルワークの業務内容は定められていない。その専門性について、「日常の援助業務と周辺業務との混在の中で、業務化・ルーティンワーク化してしまい、ソーシャルワーカー自身も気付きにくくなっている場合がある」¹⁾と指摘されている。芳賀²⁾は、社会福祉法改正による「利用者とサービス提供者の対等な関係」「苦情受付窓口の設置」「施設内

の情報公表（第三者評価）」「利用者の権利擁護」「自立支援の推進」はその特性上、ソーシャルワークと密接に関係する業務であり、相談員におけるレジデンシャルソーシャルワーク（Residential Social Work：RSW）の業務と述べている。和気³⁾はRSWの構造と規定要因を介護老人福祉施設の相談員と介護老人保健施設の支援相談員（以下、支援員）に対するアンケート調査から分析し、両施設を通じて頻繁に行われている業務として、「施設内の他職種との連絡調整」「記録の作成」などを挙げている。

介護保険制度実践から相談員が、これまで担ってきたソーシャルワークに加えて、新たに計画担当介護支援専門員（以下、施設ケアマネ）によるケアマネジメント業務が追加され、ソーシャルワーク業務の分業化が進展している。日本社会福祉士会の福祉サービスマネジメント研究プロジェクト⁴⁾では、福祉施設サービスマネジメントに注目して、社会福祉士の専門性とソーシャルワークとの関係についてアンケート調査を実施して、「RSWの評価の指標14項目（2005年）」を報告している。この評価の指標14項目を基に、著者ら⁵⁾は2008年度に介護老人福祉施設の相談員を対象にタイムスタディ調査を繰り返し、本研究の業務内容と時間の検証を行いながら、RSWコード2008年度版を構築した。

本研究は、転換期にある施設福祉サービスマネジメントに注目して、介護老人福祉施設におけるRSWの標準化と専門性を明らかにしていくことを目的に、時間と回数という量的測度から、相談員業務のRSW業務の実態を調査した。

II 研究方法

(1) 調査対象と方法

調査は、2009年4月から5月に、A県C地区の全介護老人福祉施設15施設中の13施設（回収施設率86.7%）とその他の2施設を対象とし、総計15施設の相談員の合計16人に自計式タイムスタディ調査を実施した。また、相談員以外に、同上の施設ケアマネの合計21人を対照として加え、相談員と施設ケアマネの業務実態を比較検

証した。

調査の方法として、調査協力者に「どのような業務」「何分間行ったか」を、合計1時間ごとに±5分以内の誤差で施設職員自らが記録する自計式タイムスタディ調査を実施した。

調査日数は時間外業務を含む連続2日間の従事時間内にて、各業務における「1日当たりの平均累積時間」「1日当たりの平均発生回数」「1回当たりの平均発生時間」を解析した。ただし、「1回当たりの発生時間」では、発生しない業務は欠損値として扱った。

(2) ソーシャルワーク業務分類とRSWコード

ソーシャルワーク業務分類は、日本社会福祉

表1 「RSWコード」2008年版(大分類と中分類項目)

大分類	中分類	大分類	中分類	大分類	中分類	大分類	中分類
① ニーズの把握	1 入所前の相談を実施	⑤ チームマネジメント	1 サービス担当者会議に参加	⑨ 苦情解決	1 利用者・家族からの要望、苦情を受け付ける	⑬ 施設運営管理等	1 職員に組織の理念および方針を周知
	2 契約締結にかかわる要望やニーズを把握		2 サービス担当者会議の企画・運営をする		2 利用者・家族からの要望、苦情をフィードバック		2 利用者・家族に組織の理念および方針を周知
	3 利用者の要望やニーズの把握		3 職員会議の企画		3 第三者委員と連携		3 様々な媒体を通して施設情報を提供
	4 利用者の要望やニーズへの対応		4 職員会議の運営		9 その他		4 利用者・家族の請求に基づく介護記録等の開示
	5 対応できないことについて利用者に説明		5 業務改善検討会などの企画・運営をしている		1 経済的・社会的・心理的などの相談業務を担当		5 職員の労働安全衛生の体制整備
	9 その他		6 施設内で各職種との連携・調整をしている		2 利用者の相談支援の周知		6 設備等の整備
					4 施設内の関係職種との連携		7 施設内における災害発生時の体制整備
					5 施設外(地域)の機関職種との連携		8 決裁業務
					6 プライバシーの配慮		9 その他
② 契約	1 入所にあたり契約を締結	⑥ 職員研修	1 施設内研修の立案をしている	⑩ 相談支援	1 利用者の自己決定への支援	⑭ 地域との連携	1 地域の保健医療・福祉関係機関・団体と連携
	2 契約に関する方法を関係職員で共有		2 施設内研修を実施している		4 施設内の関係職種との連携		2 地域の社会資源(インフォーマル)と連携
	3 契約のための情報提供や重要事項を説明		3 施設内研修の評価をしている		5 施設外(地域)の機関職種との連携		3 地域との連携強化の取り組み
	9 その他		4 施設外研修の立案をしている		6 プライバシーの配慮		4 地域住民のニーズへの対応
			5 施設外研修の実施をしている		9 その他		5 施設の評価等を地域に開放
			6 施設外研修の評価をしている		1 看護・医療サービスへの連携調整		6 実習生の受け入れ、育成
					2 ターミナルケアの場所や方法の選択ができる支援		7 ボランティアの受け入れ、育成
					3 福祉用具の選択ができる支援		8 福祉教育(小中学)の受け入れ、育成
					4 食事に関する適切な支援		9 その他
③ アセスメント	1 アセスメントに基づく課題分析	⑦ スーパービジョン	1 スーパービジョンをしている	⑪ ケアワーカー	1 行動上の問題に対する適切な支援	⑮ 間接業務	1 利用者に関する記録・文書の作成
	2 アセスメントに基づくニーズの抽出		2 スーパービジョンをうけている		3 食事に関する適切な支援		2 利用者に関する環境整備・清掃
	3 在宅復帰を視野に入れてアセスメントを実施		3 スーパービジョンによる業務の管理		6 排泄に関する適切な支援		3 預かり金等の管理
	4 アセスメントの記録		4 より教育効果を得る		7 移動・外出支援		4 利用者所有物の管理(物品購入を含む)
	9 その他		5 スーパービジョンにより自己覚知(支援)が促されている		8 行動上の問題に対する適切な支援		5 介護認定調査関係
			6 スーパービジョンにより自己覚知(支援)が促されている		9 その他		6 介護保険請求関係
					1 寝たきり等の防止の対策		7 職員の移動
					2 行動制限(抑制、拘束等)への取り組み		9 その他
					3 個別および集団の活動参加への支援		
④ ケアプラン	1 利用者の状態に合わせたケアプランを作成	⑧ 権利擁護	1 権利擁護に関する業務を担当	⑫ O.Lの向上(介護予防等)	4 嗜好品を自由に楽しむことができる支援	⑯ その他	1 職員に関すること
	2 利用者や家族の希望をケアプランへ反映		2 利用者・家族の声、意見について検討、フィードバック		4 嗜好品を自由に楽しむことができる支援		9 その他
	3 ケアプランを中期・長期計画の視点で作成		3 利用者の人権・プライバシーを保護		6 金銭等の自己管理の支援		
	4 在宅復帰を視野に入れたケアプラン作成		4 成年後見制度・地域福祉権利擁護事業の活用		7 介護予防への支援		
	5 潜在能力を取り入れたケアプラン作成		5 成年後見人(家族を含む)と連携		9 その他		
	6 ケアプランの内容について書面での同意を得る		9 その他				
	7 モニタリングをしている						
	9 その他						

士会の福祉サービスマネジメント研究プロジェクトが開発した「RSWの評価の指標14項目(2005年)」を基に、著者らが2008年度に実施した介護老人福祉施設6施設に対するタイムスタディ調査と本研究で検証することでRSWコードを再構築した。

RSWコードは、指標14項目に「間接業務」と「その他」を加えた16項目を大分類に、大分類ごとに2から9つの細項目化した106項目を中分類に、中分類ごとに「準備」「実施」「記録・後片付け」を加えた285項目を小分類として構築した(表1)。

(3) 統計解析と倫理的配慮

統計解析には、SPSS 17.0 J for Windowsのソフトを用い、統計学的集計を行った。本研究では、相談員と施設ケアマネによる大分類における「1日当たりの平均累積時間」「1日当たりの平均発生回数」「1回当たりの発生時間」について統計学的検定を行った。正規性評価のShapiro-Wilk検定にて、すべての従属変数は正規分布しなかったため、ノンパラメトリックのSpearman順位相関とMann-Whitney順位検定で分析した。

研究倫理的配慮として、事前に被調査協力者に対して、調査の趣旨および個人や施設が特定されないよう個人情報の保護を努めることを説明した。なお、データはID番号と数値の処理を行い、分析した。

Ⅲ 研究結果

(1) 調査対象数と兼務状況

本調査の対象は相談員と施設ケアマネであり、調査職員の基本属性を主職種により分類した。

ただし、両者のいずれの職種も専任でない場合は、兼務職種から分類した。

各職種の兼務状況は、相談員16人中、半数の8人が専任であった。そのほか8人の兼務職種をもつ相談員の内訳は、施設ケアマネ5人、介護職1人、管理職1人で、なお主職種が管理職で、相談員を兼務している逆の職員1人を含む。本調査対象では、相談員は専任する割合が5割、施設ケアマネを兼務するケースが約3割であった。

施設ケアマネでは専任はおらず、すべてのケースが兼務であった。この内、施設ケアマネを主職種としている職員が3人おり、その兼務職種の内訳は、相談員2人と介護職1人であった。逆に施設ケアマネが兼務職種であるケースは18人もあり、その主職種の内訳は、介護職が

17人と最も多く、看護師が1人であった。

(2) 調査総時間と欠損値

全調査対象者37人における連続2日間の総調査時間は40,336.7分(672.3時間)であり、そのうち、業務内容の記述がなかったものや記載内容があいまいでRSWコード分類できなかったものを欠損値として780分を除き、残りの39,556.7分(659.3時間)を分類した。1人当たり1日の平均従事時間は、534.5(8.9時間)±63.8分であった。

(3) 大分類における相談員と施設ケアマネの業務分析

相談員16人が連続2日間、延べ32日間行った調査時間と回数、施設ケアマネ21人が連続2日

表2 相談員(RSW)と施設ケアマネ(RCM)のRSWコード大分類におけるタイムスタディ

大分類	職種	N	1日平均			P	N	1日平均			P	N	1回平均			P
			時間 (分間)	%				発生回数	%				時間 (分間)	%		
ニーズの把握	RSW	32	34.00	6.1	0.008**	32	1.78	5.3	0.004**	17	25.12	5.8	0.795			
	RCM	42	9.76	1.9		42	0.40	0.6		11	25.91	9.4				
契約	RSW	32	7.66	1.4	0.270	32	0.22	0.7	0.307	5	31.67	7.3	0.227			
	RCM	42	4.40	0.9		42	0.26	0.4		3	18.33	6.6				
アセスメント	RSW	32	9.13	1.6	0.592	32	0.19	0.6	0.656	4	59.25	13.6	0.058			
	RCM	42	2.26	0.4		42	0.12	0.2		4	16.25	5.9				
ケアプラン	RSW	32	7.66	1.4	0.602	32	0.31	0.9	0.500	7	26.07	6.0	0.617			
	RCM	42	16.93	3.3		42	0.71	1.1		11	22.73	8.2				
チームマネジメント	RSW	32	72.69	13.1	0.040*	32	3.16	9.4	0.020*	28	22.26	5.1	0.594			
	RCM	42	42.29	8.2		42	1.90	2.8		31	20.62	7.5				
職員研修	RSW	32	5.78	1.0	0.478	32	0.16	0.5	0.439	2	49.38	11.4	0.245			
	RCM	42	3.93	0.8		42	0.14	0.2		5	27.00	9.8				
スーパービジョン	RSW	32	5.16	0.9	0.008**	32	0.34	1.0	0.008**	5	19.33	4.4	0.000			
	RCM	42	0.00	0.0		42	0.00	0.0		0	0.00	0.0				
権利擁護	RSW	32	8.44	1.5	0.044*	32	0.31	0.9	0.044*	3	22.22	5.1	0.000			
	RCM	42	0.00	0.0		42	0.00	0.0		0	0.00	0.0				
苦情解決	RSW	32	0.94	0.2	0.461	32	0.03	0.1	0.427	1	30.00	6.9	0.157			
	RCM	42	2.74	0.5		42	0.17	0.2		3	15.00	5.4				
相談支援	RSW	32	19.69	3.5	0.054	32	1.22	3.6	0.066	17	18.68	4.3	0.614			
	RCM	42	7.20	1.4		42	0.64	1.0		14	14.85	5.4				
ケアワーク	RSW	32	169.61	30.5	0.001**	32	14.50	43.1	0.000***	32	21.48	4.9	0.000***			
	RCM	42	271.08	52.4		42	54.05	80.4		42	10.41	3.8				
QOLの向上	RSW	32	11.09	2.0	0.430	32	0.78	2.3	0.382	6	17.85	4.1	0.093			
	RCM	42	7.86	1.5		42	0.76	1.1		13	16.18	5.9				
施設運営管理等	RSW	32	33.50	6.0	0.002**	32	1.34	4.0	0.002**	18	25.25	5.8	0.897			
	RCM	42	9.88	1.9		42	0.36	0.5		9	23.89	8.6				
地域との連携	RSW	32	11.31	2.0	0.002**	32	0.81	2.4	0.001**	15	13.55	3.1	0.434			
	RCM	42	3.00	0.6		42	0.17	0.2		6	16.83	6.1				
間接業務	RSW	32	109.00	19.6	0.190	32	6.44	19.1	0.316	31	23.10	5.3	0.530			
	RCM	42	83.69	16.2		42	5.33	7.9		38	21.61	7.8				
その他	RSW	32	51.13	9.2	0.539	32	2.03	6.0	0.249	30	29.69	6.8	0.353			
	RCM	42	52.60	10.2		42	2.21	3.3		39	26.66	9.6				
			1日総平均累積時間			1日平均総発生回数			1回平均総発生時間							
合計	RSW	32	556.8±54.1		32	33.6±20.7		32	165.5±64.4		42	107.3±54.0				
	RCM	42	517.6±66.0			67.2±40.7			107.3±54.0							

注 Mann-Whitney検定, *P<0.05, **P<0.01, ***P<0.000, N: 分析対象者の人数

間、延べ42日間行った調査時間と回数から、「1日当たりの平均累積時間」「1日当たりの平均発生回数」「1回当たりの平均発生時間」を集計して、Shapiro-Wilk検定の非正規性から、Mann-Whitney順位検定で分析した(表2)。

また、2日間に従事した業務総時間と発生総回数から、Spearman順位相関を求めた。全調査対象者37人の時間と回数には相関が認められなかった($rs = -0.026$)。また、両職種ごとの時間と回数の相関もほとんど認められなかった(相談員 $rs = 0.190$, 施設ケアマネ $rs = 0.029$)。

1) 1日当たりの平均累積時間の内訳と比率
相談員では、1位「ケアワーク」169.61±103.88分は平均総累積時間の百分率は30.5%で最も長く、続いて2位「間接業務」109.00±77.77分(19.6%)、3位「チームマネジメント」72.69±68.97分(13.1%)の順で、上位3項目では平均総累積時間の63.2%を占めた。

次に施設ケアマネでは、1位「ケアワーク」271.08±127.95分は平均総累積時間の62.5%で最も長く、続いて2位「その他」52.60±26.34分(12.1%)、3位「チームマネジメント」42.29±54.28分(9.7%)の順で、上位3項目では平均総累積時間の84.3%を占めた。

2) 1日当たりの平均発生回数の内訳と比率
相談員は、1位「ケアワーク」14.50±18.63回、平均総発生回数の43.1%で最も多く、続いて2位「間接業務」6.44±6.27回(19.1%)、3位「チームマネジメント」3.16±2.53回(9.4%)の順で、上位3項目では平均総発生回数の71.6%を占めた。

次に施設ケアマネでは、1位「ケアワーク」54.05±41.19回は平均総発生回数の80.4%で最も多く、続いて2位「間接業務」5.33±4.68回(7.9%)、3位「その他」2.21±1.16回(3.3%)の順で、上位3項目では平均総発生回数の91.6%を占めた。

3) 1回当たりの平均発生時間の内訳と比率
および順位相関

相談員は、1位「アセスメント」59.25±37.45分、平均総発生時間の13.6%が最も長く、続いて2位「職員研修」49.38±29.17分

(11.4%)、3位「契約」31.67±14.04分(7.3%)の順で、上位3項目では平均総発生時間の32.3%を占めた。

次に施設ケアマネでは、1位「職員研修」27.00±19.87分は平均総発生時間の9.8%で最も長く、続いて2位「その他」26.66±13.69分(9.6%)、3位「ニーズの把握」25.91±32.09分(9.4%)の順で、上位3項目では平均総発生時間の28.8%を占めた。

相談員における1日当たりの平均総累積時間との上位3項目における順位相関は、1位「ケアワーク」では中程度の正の相関が認められた($rs = 0.633$, $p < 0.008$)。2位「間接業務」では弱い相関が認められた($rs = 0.411$, $p < 0.113$)。3位「チームマネジメント」では強い正の相関が認められた($rs = 0.862$, $p < 0.000$)。また、施設ケアマネでは、1位「ケアワーク」では強い正の相関が認められた($rs = 0.789$, $p < 0.000$)。2位「その他」では中程度の正の相関が認められた($rs = 0.494$, $p < 0.023$)。3位「チームマネジメント」では強い正の相関が認められた($rs = 0.922$, $p < 0.000$)。施設ケアマネにおける1日当たりの平均発生回数3位の「間接業務」は弱い相関が認められた($rs = 0.364$, $p < 0.105$)。

4) 1日当たりの平均累積時間の検定

「ケアワーク ($p < 0.01$)」「施設運営管理等 ($p < 0.01$)」「地域との連携 ($p < 0.01$)」「ニーズの把握 ($p < 0.01$)」「スーパービジョン ($p < 0.01$)」「チームマネジメント ($p < 0.05$)」「権利擁護 ($p < 0.05$)」において有意差が認められた。その中で、相談員に有意に平均累積時間が長い業務は、「ニーズの把握」「チームマネジメント」「スーパービジョン」「権利擁護」「施設運営管理等」「地域との連携」で、施設ケアマネに長い業務は「ケアワーク」のみであった。

5) 1日当たりの平均発生回数の検定

「ケアワーク ($p < 0.000$)」「地域との連携 ($p < 0.01$)」「施設運営管理等 ($p < 0.01$)」「ニーズの把握 ($p < 0.01$)」「スーパービジョン ($p < 0.01$)」「チームマネジメント ($p <$

0.05)」「権利擁護 (p < 0.05)」において有意差が認められた。その中で、相談員に平均発生回数が多い業務は、「ニーズの把握」「チームマネジメント」「スーパービジョン」「権利擁護」「施設運営管理等」「地域との連携」で、施設ケアマネに多い発生回数の業務は「ケアワーク」のみであり、有意差がみられた項目は、「1日累積時間」の検定と同じ業務であった。

6) 1回当たりの平均発生時間の検定

相談員の1回当たりの「ケアワーク」に関する時間は、「ケアワーク (p < 0.000)」においてのみ有意差が認められ、施設ケアマネよりも長い傾向がみられた。

(4) 中分類における相談員と施設ケアマネの比較 (表3)

相談員と施設ケアマネの大分類の統計学的検

表3 相談員 (RSW) と施設ケアマネ (RCM) のRSWコード中分類におけるタイムスタディ

大分類	中分類	職種	N	1日平均時間 (分間)	P	N	1日平均発生回数	P	N	1回平均時間 (分間)
ニーズの把握	入所前の相談を実施	RSW	32	20.41	0.001**	32	0.84	0.001**	11	28.82
		RCM	42	2.38		42	0.07		2	32.50
	契約締結にかかわる要望やニーズを把握	RSW	32	8.44	0.093	32	0.19	0.086	4	53.33
		RCM	42	2.86		42	0.02		1	120.00
	利用者の要望やニーズの把握	RSW	32	5.16	0.874	32	0.75	0.796	7	9.25
		RCM	42	3.57		42	0.26		9	13.89
利用者の要望やニーズへの対応	RSW	32	0.00	0.383	32	0.00	0.383	0	0.00	
	RCM	42	0.95		42	0.05		0	20.00	
チームマネジメント	サービス担当者会議に参加	RSW	32	6.41	0.297	32	0.25	0.270	5	29.00
		RCM	42	5.48		42	0.17		3	35.00
	サービス担当者会議の企画・運営をする	RSW	32	7.66	0.993	32	0.22	0.952	5	37.50
		RCM	42	5.71		42	0.24		7	25.71
	職員会議の企画	RSW	32	0.78	0.252	32	0.03	0.252	1	25.00
		RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00
	職員会議の運営	RSW	32	9.53	0.524	32	0.31	0.539	6	26.04
		RCM	42	2.86		42	0.14		6	20.00
業務改善検討会などの企画・運営をしている	RSW	32	6.72	0.444	32	0.16	0.430	3	48.33	
	RCM	42	6.67		42	0.07		2	85.00	
施設内で各職種との連携・調整をしている	RSW	32	32.53	0.208	32	2.09	0.136	24	14.87	
	RCM	42	21.57		42	1.29		28	16.07	
その他	RSW	32	9.06	0.044*	32	0.09	0.044*	3	96.67	
	RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00	
スーパービジョン	スーパービジョンをしている	RSW	32	4.22	0.008**	32	0.28	0.008**	5	18.33
		RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00
スーパービジョン	スーパービジョンをうけている	RSW	32	0.94	0.252	32	0.06	0.252	1	15.00
		RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00
権利擁護	利用者・家族の声、意見について検討・フィードバック	RSW	32	0.47	1.000	32	0.03	0.252	1	15.00
		RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00
権利擁護	成年後見制度・地域福祉権利擁護事業を活用	RSW	32	7.97	1.000	32	0.28	0.103	2	25.83
		RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00
ケアワーク	看護・医療サービスへの連携調整	RSW	32	35.44	0.129	32	0.72	0.262	11	50.77
		RCM	42	3.45		42	0.67		10	6.43
	ターミナルケアの場所や方法の選択ができる支援	RSW	32	0.16	0.252	32	0.03	0.252	1	5.00
		RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00
	福祉用具の選択ができる支援	RSW	32	0.47	0.103	32	0.06	0.103	2	7.50
		RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00
	食事に関する適切な支援	RSW	32	21.97	0.000***	32	3.47	0.000***	17	9.37
		RCM	42	68.69		42	15.79		38	9.39
	排泄に関する適切な支援	RSW	32	12.38	0.000***	32	2.50	0.000***	8	9.47
		RCM	42	61.22		42	9.17		32	9.52
	入浴に関する適切な支援	RSW	32	14.69	0.011*	32	0.91	0.007**	4	16.77
		RCM	42	45.40		42	5.31		17	15.31
移動・外出支援	RSW	32	25.08	0.861	32	2.09	0.203	20	12.63	
	RCM	42	22.97		42	6.71		24	5.08	
行動上の問題に対する支援	RSW	32	3.97	0.232	32	0.47	0.306	7	10.40	
	RCM	42	8.69		42	0.57		14	16.49	
その他	RSW	32	55.47	0.554	32	4.25	0.006**	26	19.96	
	RCM	42	60.65		42	15.79		35	8.73	

(前頁からのつづき)

施設運営 管理等	職員に組織の理念および方針を周知	RSW	32	0.47	0.861	32	0.03	0.861	1	15.00
		RCM	42	1.67		42	1.67		1	23.33
	様々な媒体を通して施設情報を提供	RSW	32	2.50	0.103	32	0.09	0.103	2	25.00
		RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00
	職員の労働安全衛生の体制整備	RSW	32	10.00	0.557	32	0.28	0.620	5	44.67
		RCM	42	4.29		42	4.29		5	25.50
	設備等の整備	RSW	32	4.53	0.442	32	0.25	0.387	5	19.00
		RCM	42	3.45		42	3.45		4	36.25
施設内における災害発生時の体制整備	RSW	32	5.16	0.044 *	32	0.16	0.044 *	3	29.17	
	RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00	
決裁業務	RSW	32	6.94	0.004 **	32	0.34	0.004 **	6	18.67	
	RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00	
その他	RSW	32	3.91	0.041 *	32	0.19	0.039 *	5	18.00	
	RCM	42	0.48		42	0.48		1	20.00	
地域との 連携	地域の保健医療・福祉関係機関・団体と連携	RSW	32	10.09	0.005 **	32	0.69	0.003 **	13	14.21
		RCM	42	2.86		42	2.86		5	19.00
	施設の設備等を地域に開放	RSW	32	1.09	0.103	32	0.06	0.103	2	17.50
		RCM	42	0.00		42	0.00		0	0.00
ボランティアの受け入れ、育成	RSW	32	0.13	0.425	32	0.06	0.406	2	2.00	
	RCM	42	0.14		42	0.14		1	6.00	

注 1) Mann-Whitney検定による。*P<0.05, **P<0.01, ***P<0.000, N:分析対象者の人数
 2) Mann-Whitney検定により有意差が認められた大分類(表2)の中分類を抽出した。
 3) 1回平均時間(分間)は、中分類のN数から統計量を算出ししない。

定にて、有意差を認めた中分類のRSWコードのみを比較検証した。

『入所前の相談を実施』は、相談員に時間と回数が大きい傾向がみられ、「1日当たりの平均累積時間(p<0.01)」「1日当たりの平均発生回数(p<0.01)」のみに有意差がみられた。

『チームマネジメント(その他)』は、相談員に時間と回数が上位の傾向がみられ、「1日当たりの平均累積時間(p<0.05)」「1日当たりの平均発生回数(p<0.05)」に有意差を認め、その小分類の業務内容である『会議への参加(9.06±29.77分, 0.09±0.30回)』が要因であった。

『スーパービジョンをしている』は、相談員に時間と回数が上位の傾向がみられ、「1日当たりの平均累積時間(p<0.01)」「1日当たりの平均発生回数(p<0.01)」に有意差を認めた。

『食事に関する適切な支援』『排泄に関する適切な支援』『入浴に関する適切な支援』は、施設ケアマネに時間と回数が上位の傾向がみられ、「1日当たりの平均累積時間(p<0.000, 0.000, 0.05)」「1日当たりの平均発生回数(p<0.000, 0.000, 0.01)」に有意差を認めた。

『施設内における災害発生時の体制整備』『決

裁業務』『施設運営管理等(その他)』は、相談員に時間と回数が上位の傾向がみられ、「1日当たりの平均累積時間(p<0.05, 0.01, 0.05)」「1日当たりの平均発生回数(p<0.05, 0.01, 0.01)」に有意差を認め、『施設運営管理等(その他)』の小分類の業務内容である、「購買関係(1.72±5.77分, 0.13±0.34回)」「予算関係(2.19±12.37分, 0.06±0.35回)」が要因であった。

『地域の保健医療・福祉関係機関・団体と連携している』相談員に時間と回数が上位の傾向がみられ、「1日当たりの平均累積時間(p<0.01)」「1日当たりの平均発生回数(p<0.01)」に有意差を認めた。

Ⅳ 考 察

(1) 大分類における1日当たりの平均累積時間と発生回数

相談員の1日当たりの平均累積時間と1日当たりの平均発生回数では、大分類「ケアワーク」「間接業務」「チームマネジメント」が従事時間の上位3項目を占めた。すなわち、ケアワークと周辺業務(事務・雑用)が時間上位を占める中、相談員のRSWの専門性の評価に関連する項目は、中下位に現れる結果となった。

平均累積時間の順位からみると、ケアワークとその周辺業務がソーシャルワーク専門業務に介在するため、利用者や他職種等に対して相談員が専門性とするソーシャルワークをケアワークに兼務にしている現状があるものと考ええる。

生活と密着したサービス提供を行う「ケアワーク」は、利用者に相談員のソーシャルワークが関わる際に必然的にケアワークを通じて、直接福祉援助を担う実態があるものと考ええる。しかし、三輪⁶⁾は「利用者の日常生活援助については、他職種とともに関わる援助であるがゆえに、相談員が他の業務を優先すると後回しにしやすい業務」と述べており、どのようなソーシャルケアワークを利用者に適用するかが重要であると考ええる。

また、相談員の「間接業務」について、峯田⁷⁾は「間接業務も施設の維持管理、業務と処置業務の隙間をうめるためにも必要である」と述べた上で、「事務処理を覚えるだけでなく、アドミニストレーションとしての視点が必要である」と提言している。介護保険法等の施行により、介護報酬請求や介護認定調査、施設経営、利用者に関する記録・文書の作成など関連する事務業務が増加しているため、志賀⁸⁾は、事業推進の構成要件が効率的・効果的に絡み合う必要があると述べており、間接業務に携わる相談員と施設ケアマネの新たな役割分担を検討する必要があるものと考ええる。

チームマネジメントについては、タイムスタディ調査の結果からも相談員が主体的に関わっていた。岡本ら⁹⁾が行った先行研究の結果では、「チームワークへの参加および内部職員との連携」に関連すると回答した相談員が8割を超えており、専門業務との連携およびチームワークを連絡調整するために相談員のチームマネジメントが必要と思われる。

相談員は、利用者やその家族に対する相談業務をはじめ、施設内外の関係者間の調整や必要な社会資源の開発を行うことが求められており、RSWを展開する専門性の構築が必要であると考ええる。

(2) 大分類における1回当たりの平均発生時間

大分類「アセスメント」「職員研修」「契約」が1回当たりの平均発生時間の上位3項目を占めた。さらに1日の平均時間における順位が3位であった「チームマネジメント」の平均時間より1回当たりの発生時間が長い項目を挙げると、「苦情解決」「その他」「ケアプラン」「施設運営管理等」「ニーズの把握」などのソーシャルワークの専門業務が上位を占めた。

これらの項目は、1日の平均時間や発生回数から中下位であるものの、ソーシャルワークの対応が生じた際は、重点的に時間をかけて関わる専門的業務であり、ソーシャルワークの専門性の関与を示唆しているものと考ええる。

(3) 相談員と施設ケアマネにおけるソーシャルワークの比較

相談員と施設ケアマネとの比較では、1日の平均累積時間と1日の平均発生回数ともに大分類項目で有意差がみられた7業務群の内、「ニーズの把握」「チームマネジメント」「スーパービジョン」「権利擁護」「施設運営管理等」「地域との連携」の6業務群は、相談員におけるRSWの関わりが大きいと考える。ケアワークの1業務群は施設ケアマネの関わりが大きく、専任がなく兼務する職員が多かったためと考える。

(4) 相談員が担うケアワークの評価と課題

大分類「ケアワーク」の1日の平均時間と発生回数は、施設ケアマネには中分類である食事・排泄・入浴のいわゆる三大介護により上位の有意差を認めた。しかし、逆に1回当たりの平均発生時間では相談員に時間が長いという有意差が現れている。すなわち、施設ケアマネは多くの利用者に対して、短時間で介護を展開する傾向にあるケアワークを担っているものと考ええる。

一方、相談員は多くの利用者の中から少数の利用者に対して、時間をかけてケアワークに関わっていた。相談員がケアワーク業務を補っているという一面がある一方、直接的援助業務を

通じて利用者の情報収集・情報分析のRSWを同時に介在していることが想定される。今後の調査では、ソーシャルケアワークの視点からRSWの専門性をいかに評価するかを検討して実施していく必要がある。

(5) RSWコードとTSWコードの確立の必要性

本調査より、ソーシャルワークに共通する量的評価としての標準化と、ソーシャルワーカーの専門性からの質的評価を検討した。また、RSWのサービスの量と質を検討する上で必要なサービス評価については、ソーシャルワークを条件付けるRSWコードを確立した上で調査研究する必要があると考える。なお、標準化と専門性について検討する場合には、他の専門職とも共通する標準化と、ソーシャルワーカー自身のRSWコードの専門性から検討して構築していく必要がある¹⁰⁾。

本調査では、「RSWコード」を基に業務を分類したが、今後の研究にて、RSWだけでなく、すべてのソーシャルワークを捉える「トータルソーシャルワーク (TSW: total social work) コード」の確立を目指したい。

謝辞

調査にご協力いただいた介護老人福祉施設関係者の皆様に深く感謝いたします。

ご指導いただいた県立広島大学 山岡喜美子先生、日本ケアワーク研究会 小川真史様、三宅文枝様、影山佳奈様には、執筆にあたり、多大なるご協力をいただき、心より御礼申し上げます。本研究基盤となった(株)日本社会福祉士会の福祉サービスマネジメント研究プロジェクト委員の皆様にも厚く御礼申し上げます。

文 献

- 1) 川上富雄. 実習プログラミング論. (株)日本社会福祉士会実習指導者養成研究会編. 社会福祉実習を

担当する方のコンピテンシー養成講座 基礎編. 東京: (株)日本社会福祉士会, 2004: 31-46.

- 2) 芳賀恭司. 特別養護老人ホームにおけるソーシャルワークについて-レジデンシャル・ソーシャルワークと施設内ケアマネジメントの在り方について-. 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻紀要 2006: 4: 81-93.
- 3) 和気純子. 介護保険施設における施設ソーシャルワークの構造と規定要因-介護老人福祉施設と介護老人保健施設の相談員の比較分析を通して-. 厚生」の指標 2006: 53(15): 21-30.
- 4) (株)日本社会福祉士会福祉サービスマネジメント研究プロジェクト. 施設福祉マネジメント研究報告書. 東京: (株)日本社会福祉士会福祉サービスマネジメント研究プロジェクト, 2005.
- 5) 石田博嗣, 住居広士 小川真史 他. 老人福祉施設における相談員業務の実態について-タイムスタディ調査を試みて-. 介護福祉研究 2008: 16(1): 85-8.
- 6) 三輪直之. 特別養護老人ホームにおける生活相談員業務と専門性の関連について-生活相談員への質問紙調査から-. 人間生活科学研究 2004: 40(1): 11-22.
- 7) 峯田幸悦. 多機能型特別養護老人ホームにおける生活相談員育成に関する一考察: 16年間の現場実践を通して大学教育との関係を考える (〈共通テーマ〉地域における高齢者福祉のあり方). 社会福祉研究室報/東北福祉大学社会福祉研究室 (編) 1996: 6: 17-23.
- 8) 志賀昭彦. 新制度下における生活相談員の役割. 老人生活研究 2001: 358: 18-23.
- 9) 岡本民夫, 奥田いさよ. 老人福祉施設分野におけるソーシャルワーカーの機能と業務-老人福祉施設生活相談員の職務分析調査を通じて-. 季刊老人福祉 = Welfare of the aged 1989: 85: 68-75.
- 10) 住居広士. 介護保険における介護サービスの標準化と専門性. 岡山: 大学教育出版, 2007: 267-71.